寄せ太鼓

北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館
運営協議会 広報部会
北九州市八幡西区木屋瀬三丁目16番26号（〒807-1261）
TEL 093-619-1149
FAX 093-617-4949

筑前木屋瀬祇園まつり
昨年に続き本年も中止を決定

若葉の緑が美しい好季節となりましたが、コロナ禍で三度東京、大阪を中心に緊急事態宣言が出されるなど国内におけるコロナウイルスの感染拡大が続き、各地で医療崩壊の危機に直面しています。

そして頼るべきワクチン接種も思うに任せない状況で、さらに変異型ウイルスが拡散し、コロナの脅威にさらされています。

こうした中で、歴史と伝統を持つ筑前木屋瀬祇園まつりの去就が注目されてきましたが、当初、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底して用心深く実施する方向で検討が進められてきました。しかし、地域差こそあるものの福岡県も感染拡大が続き、周辺地域の主要なまつりが次々と中止を打ち出している状況や、ワクチン接種の動向、とりわけ、変異型ウイルスは子どもや若者にも発症する恐さがあり、まつり決行には問題ありと判断し、本年度も中止することとなりました。

二年続きの中止対応はさびしい限りですが、今はコロナウイルスから身を守り安全・安心の日常を取り戻すことが何よりも肝要と思う昨今ではあります。

長崎街道木屋瀬宿記念館運営協議会
広報部会長 徳永興紀

みちの郷土史料館 第80回企画展

「黒田家の城 －近世城郭と二十四騎－」

◆会　期　4月29日（木・祝）～6月27日（日）
◆会　場　長崎街道木屋瀬宿記念館　みちの郷土史料館

【概　要】

黒田孝高（官兵衛）・長政らの家臣で構成された“黒田二十四騎”は、その武功をもって黒田家や福岡藩を支えていました。そんな彼らの中には、筑前と豊前の国境に築城された“筑前六端城（ちくぜんろくはじろ）”と呼ばれる、筑前を守護する役目を担っていた六つの城を任されていた者もおり、二十四騎と筑前に築かれた城は深い関わりがあります。

この企画展では、一国一城令により廃城となった現在では見ることのできない幻の城の精巧な模型の展示や、黒田二十四騎の画像パネルなど、その他ゆかりのある品を展示いたします。この機会に是非、木屋瀬宿記念館へお越しください。

◇共　催　筑前城郭研究会　木屋瀬みちの郷土史料保存会

※お詫び　6月21日（月）まで臨時休館、または通常の休館日のため観覧はできません。
今回の企画展を楽しみにしてくださった多くの皆様にお詫び申し上げます。

筑前木屋瀬 今昔歳事記 第11回

紅屋泰助氏（故柴田泰助氏）の「筑前木屋瀬今昔歳事記」の第11回目です。

今回は、「ひろば北九州」平成22年9月号に掲載された9月の行事・風物について、後編としてご紹介させて戴きます。

・・・

シリーズ　文化の薫る町 木屋瀬

第二回　今に残る木屋瀬の船頭文化（その二）

私の先祖は、木屋瀬の川船船頭であったで始まる、小説「望郷の道」は、作家北方謙三の自叙伝的小説です。この小説は今から十数年前に日本経済新聞に一年間掲載され木屋瀬の地名は全国に広がりました。その主人公は明治の終り頃、木屋瀬の船頭から佐賀の博徒の家に養子に行き繁栄させ、その後台湾に渡りお菓子業を創業し、キャラメル、ドロップ等のお菓子販売で台湾を独占して大阪に乗り込み奮闘したお菓子メーカーの代表者の話です。大変先見の明に優れ金銭管理も堅実で大胆な創業経営者の姿が書かれています。

船頭と言えば、博打と喧嘩で明け暮れ粗野な感じですが、木屋瀬の船頭は、読み書きそろばんに優れ、礼儀作法も備わり、当時の社会的レベルも高く遠賀川流域の各地の神社に庄屋や大商人と並び祠や常夜灯や鳥居、神殿等を奉納しています。個人の収入も高く、当時のエリートサラリーマンの学校の先生が初月給五円の時代に、船頭は月に十五円から二十円の収入を得ていたのです。「嫁に行くなら川船船頭一度下れば繻子（しゅす）の帯」と歌われ、大変持てたようで、若い男は勇んで船頭奉公に出かけ自分の船を持ち一人前に成るように励んだと当時の回想録も残っています。

えびすの供え膳

扇天満宮での大相撲巡業

船頭といえば体力がなくては勤まりません。その並外れた体力を活かして大相撲に挑戦し大関の地位に到達した船頭がいます。

本名青山十郎、出羽海部屋へ入門し、九州山十郎という名前で明治四十七年大関に昇進して活躍、木屋瀬の天満宮下で巡業相撲大会を開催して郷土に錦を飾っています。その時の写真が旧木屋瀬郷土資料館に展示してあります。木屋瀬では、毎年夏になると盆踊りですが、船頭は歌や踊りが好きで若松の石炭受け渡しの、日待ちの時間によく踊っていたと当時の船頭は語っています。今は宿場をどりとも言います。その踊りの男踊りの中に、七手の仕草があり、当時の庶民の動作を表現していますが、船頭所作の名残では、水竿（みざを）投網（とあみ）の二つ、大名行列の名残では、奴（やっこ）さん等があります。

宿場をどりの船頭所作

十二月に入ると、すぐに恵比寿の祭りが執り行われます。鯛を釣り下げた神様の姿から想像出来るように、漁師の豊漁祈願からのはじまりです。「釣りして網せず」の言葉がありますが、末永い商いを願い商売繁盛の神様となっていきました。昔は各家でえびすの祭りの間は、床の間へえびすの掛け軸を掲げ決まりの品々のお供えをしていました。現在は町内で二～三軒がされているのみです。お供えの品々は、（活鮒鯛二匹、サザエ二個（オス・メス）、お神酒、小豆ご飯、かまぼこ、人参、寒鮒の煮凝り大根やレンコン、ゴボウ、大根の煮しめ、生酢、汁物等です。これも船頭文化の名残でしょう。

江戸時代は、船は渡し船と年貢米を運ぶのが主力で、船も厳選され、木屋瀬には二十四艘の割り当てがありました。閑散期には、多くは櫨蝋（はぜろう）や菜種、炊石（石炭を蒸した物）を運んでいました。船の管理、世話役として船庄屋がおかれ木屋瀬宿は梅本家が幕末まで勤められていました。

土手の上手を振る子供櫨紅葉
恵比須講牛は食わぬとゲンカツギ

本町　野口靖彦

多数のご参加・ご来場ありがとうございました！

長崎街道ひなまつり「木屋瀬宿～立場茶屋銀杏屋」

例年、長崎街道沿線観光文化施設5館が連携して開催しておりました〝長崎街道ひなまつり〟ですが、令和2年度で閉館となった〝もやいの家〟がひなまつりの展示を行わなかったこともあり、今回は木屋瀬宿記念館、旧高崎家住宅（伊馬春部生家）、江戸あかりの民藝館、立場茶屋銀杏屋の4施設で開催いたしました。

令和元年度のひなまつりでは、新型コロナウイルスの流行が始まったタイミングでもあったため、開催期間半ばにして休館を余儀なくされ、悔しい思いをしておりました。しかし、今年はどの施設もそれらを払拭する展示内容で様々なお客様にご来館していただきました。それに伴い、ひな飾りと共に長崎街道の歴史と木屋瀬などの地域の文化も併せて楽しんでいただけたものと思います。

開催にお力添えをいただいた皆様に心からお礼申し上げます。来年のひなまつり開催も是非お楽しみに。

史址　木屋瀬恵比須

大古、遠い所の人や未開の人をエビスと呼び、後に蝦夷と呼ぶようになったと、漁師達が大物が捕れるとエビスが捕れたと大喜びしていた。

恵比須の語源はこんな事より生まれたとも言われている。

木屋瀬町部には恵比須神社が二社祭られていた。本町四町では本町（廣自転車店）の所に祭られ、新町三町では新町（山田新聞店）の前に祭られていた。本町恵比須神社には石の門柱が二本立っていた。町の真ん中から畳一枚程もある大凧があげられ一日中、町を見下ろしてブンブン唸っていた。この頃の町の諸々の事が想い出される、町の家並、町の空である。

恵比須さまは商売繁盛の神として崇拝され木屋瀬町部の全戸が信仰し、毎年十二月の祭日には盛大な恵比須御座が開かれていた。各町内毎に御座の当元を定め、当元の家に早朝より羽織袴を正して集まり御座に着く、御座の主な行事が終るまでは　女人の出入りを禁じていた程に厳粛な御座であった。

わたしの昔話

恵比須祭日の、一週間位前より子供達は恵比須神社に籠り、（寝泊りする）寒念仏と呼ぶ行事にかかる。葉の付いた青竹に七五三の子を捧げたのを持つ者、鉦を打つ者、加勢人は袋等を提げて「西へ西へとさして行く。西は最後の弥陀如来ァァなむあみだーあみだぶつ」と念仏を唱えながらあの町この村と巡る。迎えて下さっている家の門にてお供えを頂く、そして次へ。

恵比須神社に籠り、鉦を打ち念仏を唱える。寒念仏は正に神仏混淆時代の名残りである。この寒中行事により子供達は、集団生活の助け合う心の和を学び、多くの人々に触れ、人の心の暖かさを知る。

大人恵比須祭は厳粛そのもの、子供恵比須は満十歳の男の子を頭とし祭りの中心となる。御神幸あり山笠あり寒念仏も加わり、多彩で大賑わいとなっていた。

宿場木屋瀬だけに伝えられている古い行事であり、無形文化財の価値充分と言われている。

本町　柴田由美子

「柴田豊廣遺稿集」より

ゴールデンウィーク期間中（5月3日～5日）に北九州市の新型コロナウイルス感染防止対策・イベントに関する基本方針に従い、今年は実施しました。昨年は開館20周年の記念の年でしたが、残念ながら実施は叶いませんでした。また、ご当地「木屋瀬宿場をどり」をはじめとする筑前各地の伝承盆踊りは、出演者に高齢の方が多く、懇親会もできないことから今年も断念しました。

木屋瀬宿記念館をはじめ、旧街道筋で行われたイベントも、遠出がしにくい状態でしたので、多くの方にご来場いただき楽しんでもらえたかと思います。

みどりの日（4日）開催の「春の寄せ植え講習会」では、新聞社の取材も受けました。また、2020年6月「砂糖文化を広めた長崎街道～シュガーロード～」が日本遺産に認定されたことを受け、日本経済大学竹川克幸教授による「コンペニーロード長崎街道と経世済民の道」についての講演と筑前六宿地域連携フォーラムを行い、改めて街道の歴史を学ぶきっかけづくりができたと思います。

様々な対策をしながらの開催でしたが、記念館、運営部会、関係者のご協力により開催できましたことに心より感謝申し上げます。

木屋瀬宿記念館運営協議会　運営部会長　山田　靖

新任職員紹介

館長　用田　和彦

この度、北九州市役所の4月人事異動に伴いまして、木屋瀬宿記念館でも職員の異動がございました。

今後も記念館の事業運営を通じて地域文化の振興・継承に努めてまいりますので、前任者同様よろしくお願い申し上げます。

長崎街道木屋瀬宿記念館の臨時休館について

新型コロナウイルス感染症対策のため、当記念館は**6月20日（日）まで臨時休館の期間を延長**いたします。そのため、企画展「黒田家の城　ー近世城郭と二十四騎ー」の観覧もできません。なお、6月21日（月）は通常の休館日のため、当記念館は6月22日（火）から開館する予定です。ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。